石川大会に向けて小杉大会委員長、田上実行委員長が呼びかけ

2028年、金沢で再会を

「2026全日本印刷文化典沖縄大会」の記念パーティーでは、次回（2028年）の石川大会に向けたPRが行われた。

大会委員長を務める石川県印刷工業組合の小杉善文理事長と田上裕之実行委員長ら実行委員会のメンバーが登壇。能登半島地震の際に全国各地から寄せられた支援への感謝と、45年ぶりの印刷文化典開催に向けた思いを語り、金沢での再会を呼び掛けた。



金沢大会実行委員会のメンバーがピンクのお揃いのTシャツで次回大会をPRした

小杉理事長は「2年後、石川県での印刷文化典開催に向けて準備を進めていく。実に45年ぶりの石川県での開催となり、経験したことのない集団ではあるが、精いっぱいのおもてなしで皆さんをお迎えしたい」と開催への意気込みを語った。

大会を引き受けた背景として小杉理事長は、令和6年1月に発生した能登半島地震で受けた全国の仲間からの支援を挙げ、次のように述べた。

「石川県で印刷文化典の開催を受けさせていただく背景として、全国各地で大きな災害が起こっているが、2年半前に能登で大きな地震が発生したが、その時に皆様から多く支援をいただいた。そうした皆様の応援を受けて、石川県の印刷組合も元気に立ち直っている。

まだまだ復興を進めているところではあるが、2年後はもう少し進んでいると思っている。一部、石川県と富山県の合同開催という形で進めさせていただきたい」と説明。支援への感謝とともに、両県で協力して全国の参加者を迎える考えを伝えた。

この日は、関係者が揃いのピンクのTシャツを着用。小杉理事長は「ちょっと気持ち悪いと思う実行委員長の田上が一言、ごあいさつをさせていただきます」と、ユーモアを交えて田上裕之実行委員長を紹介。

マイクを受けた田上実行委員長は「沖縄の皆様の素晴らしい大会に参加し、感動している。同時に、プレッシャーも感じつつ、2年後のためにしっかりと準備していきたい」と述べ、開催に尽力した関係者を労うとともに、次回大会への決意を示した。

そして、「石川県には、おいしい日本海の魚、日本酒もある。2年後も金沢でお会いできることを楽しみにしています」と会場の参加者に呼び掛けた。

最後に田上実行委員長は「皆さん、石川県に来てくれますか。2年後、またお会いしましょう。よろしくお願いします」と会場の参加者に呼び掛けた。



田上実行委員長

小杉大会委員長

記念パーティーで旧交温める

「2026全日本印刷文化典沖縄大会」の記念パーティーが10月16日夕刻から催され、全国から集まった参加者が沖縄の文化や音楽に触れながら、旧交を温め、交流を深めた。

幕開けを飾ったのは、喜友名諒、上村拓也、金城新の3氏による空手演武。沖縄を発祥とする空手の力強さと美しさを伝える演武が、記念の宴の始まりを彩った。

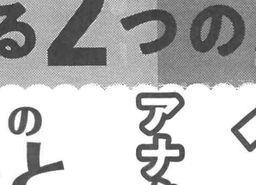
続いて、平山大会委員長が全国の仲間を迎える歓迎の言葉を述べ、来賓を代表して沖縄県中小企業団体中央会の小橋川篤夫会長が祝辞を寄せた。その後、大会開催を祝い、鏡開きを実施。沖縄観光コンベンションビューローの浜田京介会長の発声で乾杯し、歓談へと移った。

懇親のひとときには、日頃は各地で活動する参加者が顔を合わせ、久しぶりの再会を喜ぶとともに、地域や企業の枠を超えて親睦を深めた。式典や講演とはまた違った、互いの距離を縮める交流の場となった。

会の途中には、次回開催地を代表して石川県印刷工業組合の小杉善文理事長が登壇。金沢で開かれる次回大会への参加を呼びかけ、沖縄で育まれた交流を次の開催地へとつないだ。

また、喜納昌吉氏による演奏も行われ、参加者は音楽を楽しみながら、沖縄ならではのひとときを共有。文化に親しみ、語り合う時間を通じて、全国の印刷業界の仲間との絆を確かめ合った。

閉宴に当たり、沖縄県印刷工業組合の大田俊治副理事長が閉宴の言葉を述べ、記念パーティーを締めくくった。



空手演武で華やかに開宴

喜納昌吉氏のライブを楽しんだ

記念パーティーの模様

記念講演会

琉球繁栄のひみつを紐解く

歴史と文化から沖縄の魅力に迫る

講演する賀数仁然氏

琉球王国は、いかにして繁栄し、アジアの文化が交わる地となったのか。「2026全日本印刷文化典沖縄大会」では、賀数仁然（かかず・ひとき）氏を講師に迎え、「碧き琉球の繁栄のひみつ～神の国の紙の文化～」と題した記念講演会が催された。

今から約150年前まで、日本とは別の国として存在していた琉球王国。14世紀から16世紀にかけて繁栄を遂げ、アジアの文化の交差点となったその歩みには、現在の沖縄を知る手掛かりが息づいている。

講演では、琉球から沖縄へと至る歴史の流れをたどりながら、普段は触れる機会の少ない文化や歴史の変遷を紹介。小さな王国が繁栄した背景をひもとき、沖縄の持つ奥行きある魅力に光を当てた。

「神の国の紙の文化」という印刷業界にとっても関心を誘う切り口とともに、開催地の歴史と文化を見つめ直すひとときとなった。

「J-CONNECT」運用開始

概要を発表

情報・仕事・交流をひとつにするシステム

技術や加工で企業検索

事務局の情報共有促進 問い合わせ対応を効率化

全日本印刷工業組合連合会（瀬田章弘会長）は、全国の組合員を情報共有や仕事の相談、交流でつなぐ共通プラットフォーム「J-CONNECT」の運用を10月1日から開始した。

浜田氏は「まずはWeb版の組合員名簿などを説明。

全国の組合員企業がお互いの強みを知り合い、新たな仕事や学びにつなげる基盤として、積極的な利用を呼び掛けた。

組合員は「J-CONNECT」に登録すると、お知らせの確認やイベントへの申し込み、全国の組合員企業の検索、仕事・案件の相談、グループでの交流、資料共有、アンケートへの回答、自社設備やサービスのPRなどができる。

企業検索では、会社名だけでなく、例えば厚物印刷や箔押しなどの技術名や加工名、サービス名に関するキーワードから相談先を探せることが特長となる。

自社だけでは対応が難しい仕事でも、全国の組合員企業から協力先を見つけることによって、受注や提案の可能性を広げることが可能となる。

また、イベントの案内から申し込みまでを同じ場所で行えるため、組合員自身が申し込み状況を確認しやすくなる。情報の受け取りと、その後の行動をひとつの基盤で結び付ける仕組みとなっている。

や活用方法、今後の展開などを説明。

全国の組合員企業がお互いの強みを知り合い、新たな仕事や学びにつなげる基盤として、積極的な利用を呼び掛けた。

浜田氏は「まずはWeb版の組合員名簿だと思ってほしい」と説明した上で、会社名や住所を確認するだけでなく、企業を探し、連絡を取り、仕事を相談できる「仕事と交流に使える名簿」と位置付けた。

その狙いについて、「組合に入って良かった、全国の仲間とつながって良かったという実感を、日々の仕事の中で得られるようにするための仕組み」と述べた。

グッズが作れる2つの通販サイト！

専門スタッフのサポート体制&プロによるデータチェックで
はじめての方でも安心してご注文いただけます。

クリアファイルの かさまーと

FFW FunFinity Wear ファンフィニティ ウェア

アナタは